

1. 本園の教育目標

「心豊かな たくましい 子どもを 育てよう」⇒ふかえっ子の育成

<p>教育理念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ 「おはようございます」</li> <li>・おもいやり「どうしたの」</li> <li>・かんしゃ 「ありがとうございます」</li> </ul>	<p>ふかえっ子の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気でのびのび明るい子</li> <li>・集団の中で自分を生かせる子</li> <li>・よく聞き よく話し よく考え 最後までやりぬく子</li> <li>・よく遊び創造する子</li> </ul>
--	--

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	結果・取組状況	今後の課題
教育目標 教育方針と 基本的生活 習慣	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなができるようになるよう意識して指導する。また地域の方とも挨拶できるような言葉がけを心がける</li> <li>・園や公共のもの大切さを意識できるようにする。</li> <li>・自分で身だしなみにきづけるようにする。また友達同士で声を掛け合い気付けるよう促す。</li> <li>・教育目標にある「ふかえっ子」の姿を職員が意識してつねに日々の保育の見直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者が手本となり挨拶を促していた。子どもが自ら挨拶できるように引き続き促していく。</li> <li>・身だしなみを整えられるよう声を掛けると、子ども同士でも意識してできるようになってきた。</li> <li>・保育室に鏡を設置し自身で身だしなみを整えるようにした。</li> <li>・玩具扱いや片付けに課題が多い。園のものを大切にできるよう、また基本的なことができるよう伝えていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶の意味を考えながら自ら積極的に挨拶ができるようにする。また、職員自身、職員同士も普段から挨拶を大切にす。</li> <li>・クラスだより等で積極的に教育目標、ふかえっ子の姿を感じられるような場や状況、保育の様子を伝えていく。また、職員がふかえっ子の姿を意識して保育をすることや子ども一人ひとりの遊びをとらえ関わる。</li> <li>・各保育室に鏡を置き自分で身だしなみや食後の口周りなど確認できるようにする。友達同士で声を掛けられるよう意識付けをしていく。</li> <li>・基本的なことが最後までできているか保育者が気付き伝えていく。</li> </ul>
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き専門家と連携し特別支援教育の理解を促していく。</li> <li>・日々の様子を記録し成長過程を記録していく。</li> <li>・毎日の振り返りを大切に保育を進める。支援児も含めた関係の中でクラス作りをしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども同士積極的に声をかけたり助け合えるクラス、思いやりのあるクラス作りを心がけた。</li> <li>・サポートブック、個別のできたねノート、写真やカードを使用し担任と加配が共通理解をもって支援していくことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きサポートブックなどで共有していく。また専門家の助言の下で、また関わる職員間での共有と、学年や全体への情報交換の方法を考える。</li> <li>・引き続き支援児も含めた関係の中でクラス作りをしていく。</li> </ul>
食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が栽培方法に対しての知識を身に付け取り組めるようにする</li> <li>・生長過程を写真を用いて関心を高め子どもが自発的に取り組めるようにする。</li> <li>・栽培過程を丁寧に観察し自分たちで育てる意識を持つ。</li> <li>・食による体の働きや栄養が理解できるように紙芝居や絵本を使い、栄養士と連携をとり食育に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと一緒に季節の野菜を栽培し、触れたり匂ったりして生長過程を楽しんだ。</li> <li>・絵本等でなじみのある野菜を栽培することで子どもたちの関心を高めた。</li> <li>・栄養士と一緒に昼食をとることで日ごろの感謝を持つことができた。</li> <li>・三食栄養を知り、標示をみるなどで関心を持つことができた。</li> <li>・クッキングを通して食の関心が高まった。</li> <li>・育てた野菜が給食にでることで苦手なものに挑戦する姿があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物の栄養や食による体の働きを知る機会を作り、年間計画に取り込む。また、担任も絵本などで積極的に子どもたちに伝えていく。</li> <li>・栽培物の生長過程、調理過程を写真などで知らせるなどして食に興味をもてるようにする。</li> <li>・栄養士が子どもと給食をとる機会を引き続き設け、身近に感じることができるよう、感謝の気持ちもてるような言葉がけを工夫する。</li> <li>・今日の献立に入っている食材を子ども自身が考え知ること、食への関心を高めていけるよう食材標示を置く。</li> </ul>
安全管理体制 避難訓練など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の防犯・安全管理の意識向上と研修を行う。</li> <li>・絵本等を用いて、災害を知り、避難の仕方や意識をもって取り組む。</li> <li>・引き続き点検チェック表を活用し、安全に遊具をする。</li> <li>・子どもの遊びの現状より必要に応じて対策の見直しを行い環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居を使って子どもの理解を深めた。</li> <li>・避難訓練が増え、子どもも職員も安全管理の意識が高まった。</li> <li>・これまでにない事態も想定し、臨機応変に対応が行えるように体制を整えていった。</li> <li>・子どもの遊びの現状に合わせ園庭管理マニュアルを見直した。</li> <li>・送迎コースを見直しすることで安全に送迎ができるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き避難訓練を行うと共に、玩具の置く場所や園内の危険なところがないか見直しつつ確認する。</li> <li>・紙芝居等で子どもが理解しやすくする。</li> <li>・不審者対応など、職員が臨機応変に状況を判断し行動できるよう、不意打ちの訓練を行う。</li> </ul>
室内、園庭 環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室環境を整え子どもが考えたり、アイデアを交換しながら作ったりして遊びを進める。</li> <li>・造形物を展示する環境をつくる。</li> <li>・ツリーデッキをより使えるよう工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃材のお皿を使用しままごとあそびに活用した。</li> <li>・造形物を展示する環境をつくることにより継続的な遊びによる楽しみや満足感が高まった。</li> <li>・伝承あそびや素材を工夫することで遊びが豊かに環境の充実を図ることができた。</li> <li>・子どもの意欲を引き出し向上心を促す工夫を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツリーデッキより使えるよう工夫していく。</li> <li>・子どものあそびを捉える。自然物を遊びに取り入れ引き続き遊び環境の充実を図る。</li> <li>・保育者も共に遊びを楽しむことで、子どもとの信頼関係を深める。</li> <li>・子どもの現状を理解しそれに合わせ意欲的に活動できるような保育内容や室内環境を考え、それを学年で共有し取り組めるようにする。</li> <li>・あそびがより発展し深まるように環境を工夫する。</li> </ul>

園庭開放	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭での遊び方や使い方の周知し子どもや保護者が意識して安全に遊べるようにする。</li> <li>掃除をかかさず、安全できれいな園で遊んでもらえるよう整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭での約束なども確認し、子ども自ら守れるように促した。</li> </ul>	ボランティアの参加を継続し続けていきたい。
教職員のチームワーク、連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修で学んだことを伝達し、積極的に保育に活かしていく。</li> <li>園内研修を増やし、全学年、預かりと連携し情報交換を行っていく。</li> <li>職員間の連絡を確実にし迅速な対応を心掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>終礼での研修報告を行ったが、全体研修ができなかった。</li> <li>職員研修を行い保育に活かすことができた。</li> <li>保育中の情報伝達は行えた。子ども理解がより深められるような連携の必要性を感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の話し合いの場、クラスのことを伝える場を作り日々の保育に活かす。</li> <li>職員間の情報共有や保護者への連携をより綿密にする。</li> <li>副担任の配置は預かり保育との連携や職員間の情報共有や保護者との連携で効果が高く可能な限り配置したい。</li> </ul>
健康、保健衛生	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚情報による標示を増やす。</li> <li>家庭との連携を明示化する。</li> <li>感染症情報を保護者に伝える。</li> <li>空気清浄機等のメンテナンス、嘔吐対応感染予防用品の充実をはかる。</li> <li>保育室内の消毒掃除を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃用品の用途別分別の徹底を図った。</li> <li>誤嚥や喉詰り防止のため昼食やおやつの際の対応を行った。</li> <li>手洗いに加え手指消毒の徹底をした。</li> <li>手指消毒を行うが、ハンドタオル、ハンカチ等の持参を徹底できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手指消毒スタンドの増設を行う。</li> <li>嘔吐対応感染予防用品の充実。</li> <li>基本的な生活習慣が身につくように指導する。</li> <li>健康や衛生について家庭との連携が確実にできるように工夫する。</li> <li>玩具の点検も確実に実施する。</li> </ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>園外に出かけ地域の方とかかわり自分たちの街のことを知る機会を多く作る。</li> <li>地域とのつながりを実感できるよう園と関わりのあるところから出かける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園など地域へ出かける機会が少なかった。</li> <li>もちつき大会などで地域の方やおじいさんおばあさんとふれあったこと、掃除をして地域を身近に感じることができたのはよかった。</li> <li>地域の方に子ども自ら挨拶することは少ない。保育者も積極的に挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園あそび、地域散策など地域に積極的に出かけ、園の周りの様子を知る機会をつくる。</li> <li>幼稚園と関わりのあるお店などに立ち寄り感謝の気持ちがもてるような声かけを行う。</li> <li>地域マップの作成などに取り組み、より地域を知り楽しく関わりを感じることができるようにする。</li> </ul>
保護者対応 家庭連絡	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き保護者と連携し安心できる信頼関係を築いていく。</li> <li>職員同士共通意識をもって保育に関わっていることを保護者にも理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者への連絡をかたよりなく行き安心感をもてるようにした。</li> <li>桃組は送迎時保護者へ直接話す機会が多く取れた。</li> <li>直接話せる機会が多く保護者の理解が深まった。</li> <li>職員の新しい体制が増え、共通理解が難しかった。もう少し全体理解を深める環境を作る必要があると感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任、副担任と共通理解を持ち対応していく。</li> <li>普段の保育の様子をブログにあげながら保護者にも知ってもらう。</li> <li>普段直接会えない保護者には、電話連絡等で子どもの様子を伝えていく。</li> <li>家庭と連携して同じ考えで子どもをみていくことができるよう信頼関係をとり保育者自ら発信していく。</li> <li>職員の共通理解を深め、保護者への正確な情報伝達を心掛ける。</li> </ul>

### 3. 学校評価の具体的な計画の総合的な評価結果

新制度から丸5年が経過した。急速に子育て家庭を取り巻く状況が変化しており、新制度のメリットを生かした十分な配置を生かせるような組織体制を模索し、質の向上を図っていききたい。昨年10月からの国による無償化により、長時間保育の園児が増えているが、保育認定に関わらずきめ細かく必要量を把握しそれに応じた保育を提供することで、限られた配置の中で効果的に預かり保育を実施する。また長時間保育への対応から個々の興味関心に応じた遊びが充実するような環境設定への職員の理解が進み改善が行われつつあるが、この視点をさらに漸進させながら、職員配置や保育内容を見直していく。また家庭での親子の状況を早いうちに把握するため園庭開放や親子登園クラスを通じた保護者支援を充実していきたい。

### 4. 学校関係者評価

卒園児や保護者など地域の有志による関係者評価委員会を運営。地域からの園児の見守りの他、行事の見学や園児との交流会に参加して頂いて評価の根拠としている。委員会では、園のアンケートと職員の自己評価が適正に行われていることを確認して頂いた。

### 5. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されている。